

研究主題 東京都の現状を考察し、心身の健康をさらに高める保健体育授業の創造

～ 課題をどのように捉え、創作していったか ～

I 本研究会の概要

1969(昭和 44)年に本研究会は設立された。組織構成は、事務局に経理部、庶務部、行事部の3つの部署、研究局に体育部、保健部、定通部(定時制・通信制部)の3つの部署を置き、さらに行事部の中に専門委員会として舞踊研究委員会、スキー研究委員会、テニス委員会を置いている。その他に全都を 10 の支部に分け、支部組織としている。研究局の3つの部と行事部の2つの研究委員会が継続的に研究活動を行っており、定期的に関東地区高等学校保健体育研究大会で発表している。令和4年度は神奈川大会において、保健部と定通部が発表した。本年度は群馬大会において、体育部と舞踊研究委員会が発表し、ここでは舞踊研究委員会の研究を報告する。

II 研究の経緯と目的

東京都高等学校保健体育研究会舞踊研究委員会では、指導の充実・発展を図ることを目的として、創作活動の理論と実技について研究を行っている。その一つとして、昭和 29 年より東京都高等学校舞踊研究発表大会を開催している。毎回教員のための研究課題を設定し、今回も第 41 回大会から継続して取り組んでいる「課題をどのように捉え、創作していったか」をテーマに発表大会を実施した。『創作活動の記録』と『鑑賞表』を用いて研究資料の収集と分析を行い、創作過程においてどのような点を重視することでより印象深い作品を創作できるかについて考察した。

III 研究の内容

(1) 研究発表大会概要

日 程	令和4年 10 月 30 日(日)
場 所	国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール
講 師	東 海 大 学 教 授 中村 なおみ 氏 日本女子体育大学准教授 高野 美和子 氏
発表作品	課題「挑」3作品、自由課題 11 作品、計 14 作品
出演者数	301 名

(2) 活用した資料について

『創作活動の記録』

「最も表現したい内容や共通理解を深めるために行ったこと」、「基本となる動きのモチーフ」、「動きを創る際の工夫」、「使用曲」、「創作過程で重視した点(題名、モチーフ、群の構成、表情、踊り込み、音楽、衣装、その他)」の記入できるもの。

『鑑賞表』

「良かった点」を「題名、モチーフ、群の構成、表情、踊り込み、音楽、衣装、その他」より選択する形式で記入、「最も表現したい内容」が表されていたか A～C の評価を記入、また特に印象に残った作品について記入できるもの。

「印象に残った作品」のコメント数と「最も表現したい内容」が表されていたかどうかの評価、創作過程で重視した点と鑑賞側の「良かった点」の比較を表2にまとめた。(紙面上の都合で表2は掲載なし)

Ⅲ 研究の内容(続き)

「最も表現したい内容」については一覧にまとめ、「創作活動で重視した点」については、公共施設にて開催された大会を対象として、令和元年度に行われた第66回大会との比較を表3にまとめた。各作品について「良かった点」としてあげられた上位3項目の合計数をグラフ1にまとめた。(ここでは紙面の都合で表3のみ掲載する。)

表3 『創作活動の記録』より創作過程で重視した点について(3項目選択)

○前回…第66回大会 19作品、●今回…第69回大会 全14作品 上位3項目に網掛け

重視した項目	「特に重視した」、「重視した」と答えた作品数の合計とその割合				「特に重視した」と答えた作品数とその割合			
	第66回(前回)		第69回(今回)		第66回(前回)		第69回(今回)	
1 題名	9作品	47%	1作品	7%▼	4作品	19%	0作品	0%▼
2 モチーフ	12作品	63%	5作品	36%▼	4作品	19%	5作品	36%△
3 群の構成	10作品	52%	10作品	71%△	4作品	19%	6作品	42%△
4 表情	9作品	47%	5作品	36%▼	4作品	19%	0作品	0%▼
5 踊り込み	5作品	26%	4作品	29%△	0作品	0%	1作品	7%△
6 音楽	7作品	37%	6作品	43%△	0作品	0%	1作品	7%△
7 衣装	3作品	16%	8作品	57%△	0作品	0%	0作品	0%
8 その他	2作品※	10%	2作品	14%	0作品	0%	1作品※	7%△

※「その他」内容 第66回…表現したいことを意識/小道具 第69回…小道具/題材・表現内容

<<この研究に関する問い合わせ>>東京都高等学校保健体育研究会

舞踊研究委員会 委員長 西澤多美(慶應義塾女子高等学校 03-5427-1674)

または、委員 小川さおり(東京都立晴海総合高等学校 03-3531-5021)まで

Ⅳ 研究の成果とまとめ

『創作活動の記録』については、第66回と、今回の第69回を比較した。作品づくりにおいて、最も重視されている項目は、どちらも共通して「群の構成」の項目であり、変化なし。『鑑賞表』からは、第66回では「群の構成」や「表情」が良かった点として多く挙げられていた。次いで「踊り込み」や「モチーフ」となっている。そして第69回でも、同様の結果が得られている。これらの項目は、創作活動における主要項目となっている。創作する側が重視した点と、鑑賞する側の良かった点が合致している項目は、創作側の意図が伝わった成果であると考えられる。また、回答者の2分の1以上が良かった点として答えた項目に該当する作品では、「最も表現したい内容」の評価 A が、回答者の2分の1以上となり、「印象に残った作品」として10票以上の得票数を得ている傾向がある。表現したい内容が鑑賞者へ効果的に伝わり、見ている側にとって、より印象深い作品となったのではないかと考えられる。また講師の先生方から、ステージの使い方に関して演者同士の衝突や演技中に素に戻る瞬間があるなどの御指摘を頂いた。本番を想定した練習をさせる事が大切であると同時に、安心安全な環境整備を徹底し発表大会の企画、運営を行っていく。

<令和5年度連絡先>

団体名		東京都高等学校保健体育研究会
代表者	所属	東京都立日野高等学校
	職氏名	校長 高取 克明
	連絡先	042-581-7123
事務局	所属	千代田区立九段中等教育学校
	職氏名	主任教諭 長谷川 浩
	連絡先	03-3263-7190